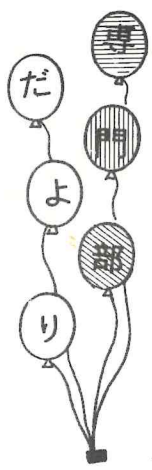
粟生

粟生第２住宅
自治会ニュース
第 49 号
発　行　自治会
編　集　広報部
昭和５５年４月３日

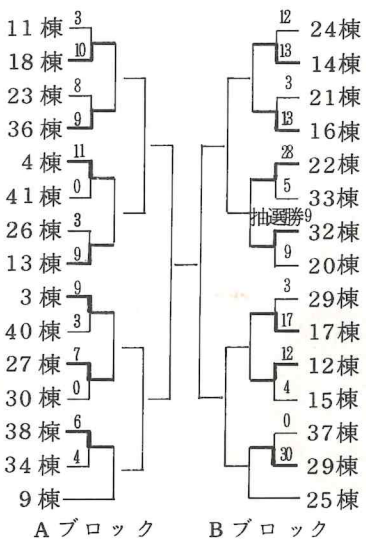


◆ 体育部

三月十六日（日）第８回春季棟対抗ソフトボール大会が豊川北小学校に於いて開催されました。

先日来の雨によりグランドコンディションが心配されましたが、当日は天候も回復し、絶好のコンディションのもとに稲尾自治会長、磯井副会長の始球式により、Ａ・Ｂブロックに別れ初日第一試合の熱戦が行われました。

なお第一日目の成績は次のとおりです。



◆ 事業共済部

現在、当自治会では郵便局の簡易保険の「団体払込制度」を活用しています。

新しくこの郵便局の簡易保険に加入される方とか、新しく当住宅に入居された方もありますので、この機会に改めてご説明をしておきます。

自治会会員中、月掛け簡易保険に加入されている方で「粟生第二住宅自治会簡易保険団体」を結成しています。

この団体への入会は自由ですし、半年、一年払の方は入会できません。従って、今迄半年、一年払を月掛けに変更されるときは入会できますし、逆のときは退会できます。

さて、入会者に対する保険料の集金は、自治会で選定した集金人（森本幸枝さん、40−101 (29)6964、梅村満寿子さん 13−302(29)8525 によって行います。

この集金によって、保険料の七％が手数料として入り、集金人の報酬を差引いて自治会の事業収入となります。

こうして、入会者に対する保険料の割引はありませんが、毎年この事業収入の三分の一程度の粗品を入会者にお贈りしています。

又、転出されるとき保険契約は解約する必要はなく、転出先で引続き継続することができます。

◆ 婦人部

二月二十三日（土）　午前十時〜十二時まで、集会所洋室で体操教室をいたしました。申込者三十五名でしたが、当日は急用などで参加できない方もありました。

体操をしたあとは、さわやかな疲れはありましたが、日頃の運動不足を痛感いたしました。翌日は筋肉痛に悩まされました。ずっと続ければ、効果があるのでしょうが……！

三月七日、第三回廃油の回収と石けんあっせんを行いました。当日は雨模様で冷え込んでいましたが廃油回収量は、十缶ありました。

昨年一年間で十一缶
今年　〃　三十缶　となりました。

今年度の回収はこれで終ります。

廃油を出された方の石けんとの交換は予定より遅れて四月に入ってから行いますので御承知下さい。

林

「福寿会と想い出」

25棟　池口　清

自治会発足の年に、当時の自治会長を始め役員の方々の御努力で、お年寄の方を主体に、生れたばかりの会を「福寿会」と名付けて、早や五年目を迎えようとしています。

若輩の私が係をおゝせつかり、自治会役員の方々と手分けして、お年寄のおられるお宅を、福寿会々員募集のチラシを持って、一軒一軒回ったのがつい先日の事の様に思います。

近頃ではいつの会合でも、不断着で歌や踊りが飛び出す賑やかな福寿会ですが、第一回目の集りの時は、一張羅にめかし込んで、借りて来た猫の様にかしこまっていたお婆チャン達のお顔が想い出されます。

あの頃、元気に集会所でお婆チャン達に、千代紙で作った「クス玉や燈籠」を教えて下さっていた、副会長の福有さんが亡くなって、早や二年が過ぎました。

箕面市老人保養センター松寿荘や箕面山荘そして勝尾寺参詣と行事を重ねる度に、お互いに気心も知れ、歌や踊りも出る様になりました。老人会の会合と言うよりも、まるで何年ぶりかの同窓会の様な賑やかな楽しい福寿会の雰囲気が生まれたものです。

一泊旅行も計画され、月々のお小遣いの中から千円づつ積立てて、毎年秋に揃って出掛けています。第一回目は京都大原之里、第二回目が忠臣蔵の故郷、赤穂御崎から姫路、そして昨年は、観光バスを使って能勢之郷で一泊し、翌日は妙見山を参詣しましたが、いつの旅行でも、夕食後、芳賀会長や杉田副会長を囲んで、夜のふけるのも忘れる楽しい語らいは旅のハイライトです。

今年は「もう少し遠出を」と言う意見もありますので、行先等現在計画中です。

毎年忘年会を兼ねての餅つき大会も昨年からは、本格的にウスでつく様になり随分と賑やかになりました。

今年は五月七日に京都嵯峨野え、日帰りで行く計画もあります。

こんな楽しい福寿会です、まだ御入会になっていないお年寄の方、是非共御入会下さい。

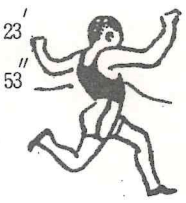
引越しで他所え移られた方、不幸にも御他界された方も居られますが、会員は発会時よりも増えて、現在四十名近くにもなりました。自治会々員の皆様、今後共、福寿会によろしく御理解と御支援を下さいます様、お願いいたします。

◎ 起きよう会
（ジョギング クラブ）

暑さ寒さと、時には風や雪をも仲間に入れて、楽しくしゃべりながら走る当会も、はや、3回目の冬に別れを告げようとしています。

今年も恒例の箕面市民マラソン大会に多数参加しましたが女性陣の活躍は目ざましく、7km、5kmの上位を完全独占致しました。

この他、昨秋から数々の大会に有志が参加し日頃の力を試しております。成績は、次の通りです。



◎箕面市民マラソン（2月11日）

●一般（男）・5km
井上 章 23′53″
井上一生 25′56″

●壮年（男）・5km
梅村 進 24′29″

●一般（女）・5km
高城慶子 22′02″ （1位）
大西たみ子 22′22″ （2位）

●一般（男）・7km
本村富男 27′25″ （10位）
大西邦明 28′59″ （11位）
小島敏彦 30′22″ （13位）
保木 勇 31′26″ （15位）

●壮年（男）・7km
植木 聡 30′33″ （7位）
上野康男 31′20″ （10位）
江原利武 32′08″ （12位）
酒居公明 32′11″ （13位）
古江正興 32′52″ （14位）
松仁英生 34′12″ （15位）

●一般（女）・7km
保木かをり 32′14″ （1位）
荒井久代 32′41″ （2位）
小島貴子 32′58″ （3位）

◎阪神高速・大阪松原線開通記念走り初め健康マラソン（55・2・24）

●10km
荒井久代 47′10″
小島貴子 48′30″

●20km
上野康男 1°33′03″

少年野球新入部員募集のお知らせ

箕面モンキーズは箕面粟生団地に居住する家庭の子弟によって編成された少年野球チームです。

少年達に正しい野球を指導し野球を通して体位向上及び規律、協調性スポーツマンシップの精神を養い友情を深めることを目的とするチームです。

なおスポーツに関心が深く青少年の指導教育に情熱の有る方コーチも募集致します。

募集学年　3・4・5・6年生
入会費　一五〇〇円
毎月部費　一〇〇〇円
練習日毎週　土曜日）午後2時から
日曜日）
練習場所　豊川北小学校グラウンド
連絡先　二八棟一〇六号　翁田（オオタ）
電話番号　二九局一七九七七番

関西団地軟式少年野球連盟公認箕面モンキーズ
箕面市軟式少年野球連盟公認箕面モンキーズ

新入居者案内

一一三〇一　山崎藤彦
一三一二〇四　宮久淳次　景子
二五一三〇五　高井孝文　礼子

粟生48号新入居者御案内欄に記載されておりました荒木弘氏（一四一二〇二）は、荒井弘氏の誤りですので訂正してお詫びします。

事務局よりお知らせ

五五年度定期総会は、五月一一日（日曜日）に行います。

子供の声

一生けんめいおこってほしい

中学校二年　上野　健

僕は、大人があまり好きじゃない。きらいだと思う。僕達子供をある面で頭から押さえつけているからだ。

しかし、今の大人は、「――してはいけない。」とか「――をするな。」とか、口に出して注意することはできても、一生懸命に怒ってはくれない。頭から押さえつけるといっても、口先で否定しているだけだ。正直いってこの僕も、親父に、ひっぱたかれたことが、生まれてから一度もない。前に書いたが、僕の言う、「一生懸命に怒ってくれる」ということは、口先であしらうのではなく、真剣に、情熱的に、時にはどなり、時には張り倒すといったようなことをさす。実際、口先であしらうようにおこることは、真剣味のない、どっちでもいいことに対するしぐさなので、された側としては、いかりと、自分のことを真剣に考えてくれていないという、失望の心をいだくのである。

これが、現代の大人の特長だとおもう。例えに、「子供に対するしかり方」を出したが、万事においていい加減である。いい加減であるといったが、やるべきことは、ちゃんとするのである。仕事しかり、しつけしかり、すべてするのであるが、中味がない。中味がないというより、心がはいっていない。つまり、事の一挙一動に、自分独自の感情を注入しない。だから、いい加減なのである。

それにもかかわらず、大人は自分本位の考えだけはできるのである。このことは、政治家がもう、新聞やニュースで立証ずみだから、説明するまでもないだろう。この、大人の自分本位の考えが、僕らを頭から押さえつけているのだろう。

これらのことから、僕は大人があまり好きじゃないのである。

今の大人はこんなふうだが、昔の大人はどのようなものだったのだろうか。

僕の祖父は、もう七〇歳以上になる。今はもうすっかり隠居の身であるが、暇さえあれば、自分で建てた工場をのぞきに行ったりしている。よく母に祖父の若い頃の話を聞かせてもらう。若い頃祖父は、祖父の父は、人が良すぎて金をだまし取られ、会社が倒産してしまったので、長男ということもあって、働きにでた。いろいろと苦労をし、弟子入りもして、ようやく、自動車の修理、部分品の取り替をする工場を大阪の福島区に建てた。仕事に関しては、鬼のように怖い祖父も、家へ帰れば子供のほしいものは、何でも買ってくれる良き父で、食べ物など一度でもうまいというと、何度でも買ってきたりということは、毎度であった。しかし、怒るときは、家中がひっくり返るような声でどなり、おもいっきり張り倒されるらしい。母が小さい時、みんなから仲間外れになりそうな時、祖父は、学校までおしかけていって、「そんなことをするんは、どこのどいつや。」とどなりこんだらしい。

今これだけ、真剣に子供のことを考え、情熱的に生きている人はいるだろうか。中にはいるかもしれないが、大半は、いい加減な人生を歩んでいるだろう。どこにこの差が生まれるのだろう。僕の先生も言ってたが、子供も大人も、昔はみんな生きがいを持っていて気力が充実していったという。気力の差が昔と今の大人には、比べものにならないぐらいあっただろう。

祖父に比べて僕の親父はどうだろう。日曜ごとに、ゴロンと横になってテレビを見て、やがて寝てしまうか、ポケーッとしているかである。別にそれが悪いのではないが、僕がしゃべりかけても、フヌケのように「ウン」としか話さないのである。そのくせ外づらはいいのである。僕はこのような親父を見ていると、がっかりというか、力がぬけるというか、そんな感じになってしまうのである。

僕にとって大人というものが、親父である要素が一番強いのに、これでは、僕の大人に対する考えが、今まであげたようなものにしかならないのは、仕方がないかもしれない。親父にも良いところがあるのに、僕が目にするたびに寝ていて、話すたびに「ウン」だけの返事では、どうしょうもない。

僕が親父に願うことは、ほしい物を買ってくれることではない。親父に、大人とは、こんなにすばらしいものなんだぞ。人生とは、こんなにも楽しいものなんだぞということを、身をもって自然に教えてほしい。今の親父を代表する大人を見ていると、僕はこれから大きくなり、あんな人間がつくった社会を土台にして生きていくのかと思うと、大人になるのがつくづくいやになる。なんてゆるい土台なんだろう。その上にのった僕達までが崩れてきそうだ。

僕は、今まで偉そうに大人のことを書いてきた。大人達の苦労や悲しみも知らずに、自分の頭でわかる範囲の大人を書いてきた。だから、僕の知っている限りの大人に、僕から言えるのは、生きているのなら、楽しさ、悲しさ、驚きを何かに表わしてみろ。無気力にヌボーッとしていることは、現実から逃げているひきょうなことだ。いや、そんなことはどうでもいい。ただ自分の心に素直に従ってほしい。変な見栄や世間ていを気にせず、自分の思ってることに素直に従ってほしいということだけだ。

おわり